



## 第3回・第4回合同がん緩和ケアに関する 国際会議(3rd&4th SCPSC)の 新たな開催日時のお知らせ

現在、ロシアのウクライナへの軍事侵攻により戦争の悲劇が繰り返されています。世界の人は、日々凄惨な映像を目の当たりにし涙を流し心を痛めています。そのような困難な状況に直面し、2022年7月開催予定であった3rd&4th SCPSCのしばらくの間の延期を表明しました。しかしながら、この現況の中でこそ安全を図りながら私達のSCPSCを開催する深い意義を認め、2023年4月27～29日の開催を決意しご案内申し上げる次第です。

2015年国際連合(国連 United Nations, UN)サミットで「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための2030年までの行動指針」(Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development)が採択されました。そこで掲げられた17の目標がSustainable Development Goals(SDGs)と呼ばれています。その健康分野については「Goal 3: Good health and well-being; Ensure healthy lives and promote well-being for all age(あらゆる年齢の全ての人の健康的な生活を確保し福祉を推進する)」として9つの標的項目が設定されています。その中の「標的項目3.8: Universal Health Coverage(UHC)の達成」は、他の健康関連の標的項目の要でもあります。UHCは具体的に「全ての人々、全ての地域社会が、財政の困難に遭う事なく必要な保健医療サービス、即ち予防(prevention)、治療(treatment)、リハビリ(rehabilitation)、緩和ケア(palliative care)を享受する事」としています。ここで保健医療サービスがこの4つの相から成る事と、緩和ケアを他の3つの相と同等に位置付けた事は、保健医療サービスを全く新しい概念に進化させた事を意味しています。

即ち、UHCを介して緩和ケアがGood health and well-beingに大きく関与する事が示されました。これはそもそもの緩和ケアの思想、「人権としての緩和ケア(プラハ憲章)」と全く整合しています。

Good health and well-being(良好な健康と善き在り方)は人に限らず、国や民族など世界の平和に対しても適切なkeywordといえましょう。また“sustainable development”という言葉には、限りある世界・人類の平穏を求めるという緩和ケアの真髓が託されています。従って、この戦争の悲劇の中で緩和ケアに関する国際会議を開催することは、世界平和を希求する私達の立場を如実に表すものと思われます。

3rd&4th SCPSCが紆余曲折の結果、2023年4月27～29日の開催となりました。これまで多くの関係する方々にご迷惑をお掛けしました。しかしながら、魅力あるprogramに免じお許しを頂き、ぜひ皆様のご参加をお願い申し上げます。

The International Research Society of the SCPSC

理事長 石谷 邦彦

2022年6月25日

# Working together for palliative and supportive care throughout the world

At present we are once again facing the tragedy of war the military invasion of Ukraine by Russia continues to unfold. People across the globe find themselves heartbroken and in tears as they are confronted by such horrific images on a daily basis.

In light of such difficult circumstances, we have announced that the 3rd&4th Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer (SCPSC), which was scheduled to be held in July 2022, will be postponed for the time being. However, we acknowledge the profound significance of the SCPSC being held even under such circumstances and, while ensuring safety, we are determined to hold it on April 27-29, 2023.

The resolution toward "Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development" was adopted at the 2015 United Nations General Assembly. The 17 goals set out in this resolution are called Sustainable Development Goals (SDGs). Nine targets were set for the health-related Goal 3, "Good health and well-being; Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages". The achievement of Target 3.8, "Universal Health Coverage (UHC)," is also the cornerstone of the other health-related targets. UHC means that all individuals and communities receive the health services they need without suffering financial hardship. It includes the full spectrum of essential and quality health services, from health promotion to prevention, treatment, rehabilitation, and palliative care across a person's entire life course.

The fact that future health services will consist of these four phases "prevention, treatment, rehabilitation, and palliative care" and that palliative care is positioned on an equal footing with the other three phases, indicates that health services have now evolved into a completely new concept.

In other words, it was shown that palliative care greatly contributes to good health and well-being through UHC. This is entirely in line with the original idea of palliative care; i.e., "palliative care as a human right (Prague Charter)".

Good health and well-being can be said to be appropriate keywords not only with regard to individuals but among countries and ethnic groups, and thereby to have an influence on world peace. In addition, the term "sustainable development" captures the essence of palliative care, which is "to seek peace for both the earth and humankind within their respective limits" Therefore, holding an international conference on palliative care among the tragedy of this war seems to be a clear indication of our position in the pursuit of world peace.

Despite the many twists and turns, the 3rd&4th SCPSC is now scheduled for April 27-29, 2023. We apologize for the inconvenience caused to the many people involved. However, we would like to ask for your participation in what we believe to be a particularly attractive program.

Kunihiko Ishitani

# 近況 報告

## 石谷邦彦理事長、 東札幌病院の病院長に就任

2022年8月1日より石谷邦彦理事長が病院長を兼務する事になりました。2020年から2年間病院長を勤めた西山正彦副理事長が、東京での公務専念のため札幌を離れる事による人事です。西山正彦副理事長は今後も副理事長を継続されます。創業者である石谷邦彦理事長・病院長は、東札幌病院の思想の基に新しい時代に向けてマーシャル的な連続的変化(Alfred Marshall)とシュムペーター的な創造的破壊(Joseph Schumpeter)という目標を掲げています。創業40年となる東札幌病院の明るい未来が期待されています。

(消化器内科・副院長 日下部俊朗記)

## 石谷邦彦理事長、 British Medical Journal Supportive and Palliative CareのAsian editorに就任

石谷邦彦理事長は世界4大医学雑誌の一つである1840年創刊のBritish Medical Journal (BMJ; 英国医学雑誌)の緩和ケア部門のassociate editorを2019年から2021年9月まで3年間務めていました。この間200報に及ぶ論文の審査を担当しましたが、多忙のため1期でその務めを退いています。その後、編集長であるノースカロライナのLevine Cancer InstituteのDeclan Walsh教授から再三の要請があり、2022年5月にAsian editorに就任しました。Asian editorは世界各地代表の編集主幹であり、主要な論文の審査と各分野の論評、雑誌への提言などが主な仕事とのことです。石谷邦彦理事長はassociate editorより時間は取られないと言っていますが怪しいものと思います。

(血液内科 平山泰生記)



## COVID-19 Pandemicに考える


副理事長・病院長 西山 正彦



本邦が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック状況に陥って2年半が経過しました。今回も多くの方が苦しまれ、また命を失われる結果となっていました。幸い当院では重篤な患者さんが多い中、入院患者さんの発症者は一人もなく、感染制御に関わっているスタッフに深く感謝しております。

感染症との闘いは有史以来、人類最大の試練のひとつです。その歴史は、細菌やウイルスにとっても人類にとっても、まさに淘汰・進化の過程でもあったといえるようにも思います。発生原因の究明はともかくとして、なぜ、ここまで感染が拡大したか、今回のPandemicは実に多くの考えるべきことを、私たちに訴えているように思います。まず一つ目は、急速に進歩はしていても、科学、医学・医療への過信は極めて危険であること、人智ははまだ自然の驚異の前には遠く及ばないことを再認識する必要があるということです。二つ目は本邦の危機管理体制の脆弱さです。正確な情報の収集と迅速かつ適切な決断、流れるごとく速やかに末端まで浸透する決定事項の実施、

この両者なくして危機管理は成り立ちません。指揮命令系統が並立し、対応に右往左往したこれまでの日々でした。三つ目は、それを支える本邦の技術基盤の立ち遅れです。登録、管理システムやアプリの貧弱さには驚きを隠せませんでしたし、残念ながら、お家芸ともいえた本邦のワクチン製造技術の立ち遅れにも愕然としました。考えてみれば、半導体も、情報技術も、電子機器や家電等もやはりこの国のお家芸であったはずでした。基礎科学、応用科学論文も質・量ともに中国等の後塵を拝して久しく、本邦の数値はずっと横ばいか下降傾向にあります。現状維持は退化のはじめの一步でもあります。よりよい日常の実現を求める大きなエネルギーが世界には満ちています。良いものはさらに良く、悪いものは直ちにこれを改める。この意識なくして先端と繁栄は維持できません。四つ目は、プロフェッショナル軽視です。エキスパートは一朝一夕には養成できません。多くの時間と経費、際立った才能と膨大な努力、厳しい競争と淘汰があってはじめて到達できる領域です。そうした人々の知識と技術が時代を切り開いていきます。経



济効率重視の中で切り捨てられる高度専門技術者、具申した意見の無視・軽視、恵まれない社会・生活・労働環境等々の現実、国籍まで変えざるを得なかったノーベル賞受賞者のインタビューはあまりにも重く深く心に突き刺さるものでした。

国力の衰えを目の当たりにする日々でした。当然経済も同様です。東京は世界で最も物価が高い都市として知られていましたが、今や日本は物価が安いので、旅行に行きたい国の最上位に君臨しています。国粹主義を訴えるものでも、国や行政の批判だけをやるものでも毛頭ありません。生活状況・環境が国民の健康に及ぼす影響は実に大きいのです。貧困は保健環境を劣化させ、次世代を担う子どもたちの食事、教育、生活環境にも悪影響を与えることは言うまでもありません。また、スペイン風邪の世界的大流行事例でも明らかのように、感染のパンデミックは、経済恐慌、戦争と前後して発生します。実際、今もウクライナで侵略戦争が起き、その世界への拡大、世界経済の破綻が懸念されております。小職は

いわゆる鉄腕アトム世代で、高度成長とともに育ち、青壮期をバブル経済のなかで過ごしました。Japan as No.1と言われていた時代で、まさに刹那の繁栄と享楽を甘受した世代です。こうした状況が生まれた責任、少なくともその一部は、小職たちの油断、怠慢、思い上がりにあると思っております。力と期間は限られておりますが、医療者の端くれとして、自ら為せることを全力で為す、その気概をもって日々の務めを全うしなければならない、猛省とともに自らに強く深く言い聞かせております。

最後となり、また、私事ではございますが、本年7月末をもって当東札幌病院の院長を辞し、副理事長としての職務に専念させていただくことになりました。わずかの期間ではありましたが、この間賜りましたご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、今後とも当院ならびに小職に対しまして、変わらずご指導、ご鞭撻賜りますよう何卒お願い申し上げます。

## 第37回 日本臨床栄養代謝学会 (JSPEN2022)に参加して

消化器内科・副院長 日下部 俊朗

2年前の新型コロナウイルス感染症の蔓延により国内学会のほとんどが開催中止・延期となりました。その後、インターネット中継によるリモート開催が行われるようになりましたが、国内の専門家同士の交流は以前と比較して極端に低下していました。

新型コロナウイルス感染症は依然として終息していない状態ですが、これまでの知見によりしっかりと感染防止対策をとることで、安全に参加できることもわかってまいりました。今回、横浜市で開催されたJSPEN2022に参加いたしましたのでご報告いたします。

JSPENは栄養治療やそれらを支える基礎研究を目的とした学会で、例年1万名以上の医師や看護師、栄養士、薬剤師などの医療者が集まって、専門的な議論を行う国内でも大きな学会の一つです。感染症蔓延の影響により昨年は500名の参加者でありましたが、本年は2500名の現地参加者となりました。

私は「経腸栄養における投与アクセス選択の根拠を考える」というワークショップの司会を担当いたしました。栄養はもちろん食事の経口摂取が基本ですが、病気や障害のために経口摂取が困難な場合は経腸栄養（経鼻胃管や胃瘻など）や経静脈栄養（点滴）が選択されます。医学的には胃腸に問題がない場合は経腸栄養を選択するのが一番良いとされています。しかし、医療制度や経済的な背景、介護の問題などにより、かならずしも適切であるとはいえない栄養補給方法が選択されることがあり、治療効果の低減や合併症のために患者さんのQOLはしばしば低下します。

本ワークショップでは経腸栄養の医学的、社会的諸問題についてさまざまな立場からの発表が行われました。会場からの質疑応答も活発になされ、リモート開催では難しい専門家同士での意見交換の場として、現地での学会参加はやはり必要であると再認識いたしました。今回得られた知見を今後の日常臨床に生かしてまいります。



## 我が家の階段

芳賀孝郎

私の家に入るには20段の階段を上らなければならない。十数年前、山仲間の山崎英雄氏・札幌医科大学名誉教授（第一次・二次マナスル登山隊員）が我が家を訪ねて来た。その時、「この階段はいつまで上ることが出来るだろうか」と言って、手すりにつかまりながら上がってきたことがあった。

私は近所の散歩に時々出かける。私の住んでいる宮の森は、1950年頃まで乳牛が放牧された馬場牧場があった。そこには大きな赤い屋根のサイロも立っていた。ナマコ山一帯が牧場で、冬になるとこのナマコ山付近は絶好のスキー場となった。この山の麓には北大のスキー部の合宿場があった。大倉山の下の上には宮の森・北大ジャンツェもあった。この付近にはウサギをよく見かけ、追いかけてたりしたことがある。当時新雪の上に多くのウサギの足跡があった。現在ウサギは全く見かけない。見かけるのはエゾリスとキタキツネである。

宮の森は素敵な住宅街と変貌した。私は我が家と違うこの家並みを見ながら散歩するのが好きである。家のデザインは、時代によりさまざま変化している。きれいな庭のある家、庭の花や木々も見るのも楽しい。庭のない土地一杯に建てた家、景色を見たくないのか、人から見られるのが嫌なのか窓が少ない家、窓がない家などさまざまである。

勝手にいろいろと想像しながらの散歩をして家の前に立つ。その前には20段の階段がある。階段を一步一步上がり20段で散歩は終了する。



▲2月の階段

家の近くに311mの山がある。その名前は三角山で一等三角点がある。この山は名前の通り三角形である。1950年代までスキー場であった。

三角山は急斜面である。私は高校の頃インターハイ出場を目標によく練習した。全日本スキー選手権大会回転競技も行われた。1952年大会では日本人初のオリンピック回転競技でメダリストになった猪谷千春選手も参加していた。

その後、私が留守にしていた時代（1953年～1966年）に、北海道神宮が三角山を売却して私有地となった。三角山は、その後碎石場となり、三角山の南側が大きく削られた。地元の町内会・宮の森明和会の人たちの反対運動で碎石が中止され、三角山は札幌市の所有地となった。しかしその碎石の痕跡は今も如実に残っている。

「三角山を守る会」が立ち上がり、碎石場を元に戻す運動も始まった。私はその会の元会員である。私は、復元する費用を掛けるのではなく、時間を掛け、そのまま自然に委ねた方が良く考えている。碎石場の斜面は、少しずつ白樺や柳、その他の木々が茂り始めた。毎年、確実に少しずつ復元している。

三角山の碎石場は、札幌の建設ラッシュの時、自然破壊をした時代があったことを示す痕跡である。碎石場を残すことが歴史的、教育的に大事と思っている。

私は、四季を通して春夏秋冬の三角山を登っている。その時、必ず碎石場跡の前を通って登っている。その時碎石場をよく見ると、自然が確実に回復し、その変化を観察している。

3月11日は高さ311mの三角山の日と私は勝手に決めて毎年登っている。偶然にもこの日は東北大震災の日である。近頃その日、多くの人が登山するようになり、山頂より南西の被災地の方向に向かって追悼の祈りをしている。

頂上から見ると、石狩平野へ向かって札幌市街は拡大している。200万都市として展開されているのを実感できる。75年前、中学生の時見た札幌は20万都市であった。今日のその発展ぶりに驚く。かつ最近ではビルの高さが高くなり、30階、40階の高層ビルが立ち並ぶようになった。

三角山からの尾根路を下り、大倉山へ向かう。この尾根路は、四季により風景が変わり、小さなアップダウンがあり気持ちが良い。秋の落葉の

季節になるとこの路は落ち葉の絨毯となる。大倉山を過ぎて小別沢へ下る。この散策路は札幌が大きく発展しても昔と変わらないのが嬉しい。

小別沢から一般道路に出て、少し下ると昔は山林であった所が住宅街と変化した。急な斜面に家が建っている。冬場の雪を心配しながら我が家に向かう。

2時間半の登山を終えて我が家の階段の前に立つ。

最後の20段の階段を上るのはきつい。ドッコイショと声を掛けながらゆっくり上る。階段を上り終わると登山は終了である。87歳で登山が出来ることで神に感謝する。

我が家の20段の階段は、私の一生、死ぬまで上れる階段であって欲しい。

2021年5月記



▲10月の階段



# 外来医師スケジュール

(2022年6月14日～)

診療時間		月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:00	1診	鳥本 (内科初診/再診)	鳥本/小野(賢) (内科初診)	鳥本 (内科初診/再診)	鳥本 (内科初診/再診)	鳥本/小野(賢) (内科初診)	交代制
	2診	石谷	石谷	石谷	三原	三原	
	3診	日下部	伊藤	渡邊(奈)	長岡	日下部	
	4診	久村	平山	平山	平山		
	5診	高木	古谷	高木	秋津	秋津	
	6診		木村 (外科初診/再診)	呼吸器内科 (出張医)	木村 (外科初診/再診)	照井	
	7診	長谷川 (外科初診/再診)	大村	空閑 (外科初診/乳腺・甲状腺)	大村	長谷川 (外科初診/再診)	
	8診 (発熱者対応)	照井	整形外科 (出張医)	照井	照井	伊達	
	9診 (発熱者対応)			佐藤 (病をよく識る外来)		西山 (セカンドオピニオン外来)	
	放射線治療	堀	堀	堀	堀	堀	
	内視鏡	伊藤	長岡	日下部	渡邊(奈)/佐賀	安保	
	腹部エコー			三谷			
口腔外科	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水		

診療時間		月	火	水	木	金	土
午後 14:00～17:00	1診 (内科初診)	鳥本/照井	鳥本/照井	鳥本/照井	鳥本/照井	鳥本/照井	休診
	2診	三谷	小野(賢)	小野(薫)	小野(賢)	三谷	
	3診	長岡	渡邊(奈)	佐賀	伊藤	佐賀	
	4診	中村		町野	町野	中村	
	5診	秋津	三原	井須	高木	脳神経内科 (出張医)	
	6診 (外来初診)	長谷川/木村 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川/木村 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川 (手術のため緊急対応のみ)	長谷川/木村 (手術のため緊急対応のみ)	
	7診		大村	大村		久慈	
	8診 (発熱者対応)	三谷 (13:30～)	出張医 (13:30～)	出張医 (13:30～)	出張医 (13:30～)	三谷 (13:30～)	
	9診 (発熱者対応)						
	放射線治療	堀/出張医	堀	堀	堀/出張医	堀/出張医	
	内視鏡	渡邊(奈)/佐賀	日下部	長岡	出張医	伊藤	
13:30～17:00	口腔外科	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	水越/太子 石谷/清水	
14:30～16:30	発熱外来 (院外)	仮設診察室	仮設診察室	仮設診察室	仮設診察室	仮設診察室	

※外来受付時間 月曜日～金曜日8:30～17:00 土曜日8:30～12:00

※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。

※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。

※禁煙外来(要予約) 木曜日・金曜日11:30～12:00 担当医師:秋津

※病をよく識る外来(要予約) 水曜日9:00～12:00 担当医師:佐藤

※セカンドオピニオン外来(要予約) 金曜日9:00～12:00 担当医師:西山

※石谷外来 火曜日9:00～11:00

※外科外来は、手術等により診療時間が変更となる場合があります。

※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。

※現在多くの発熱患者さんがいらっしゃいます。当院では、期間限定で体温37℃以上の方をまず8診、9診にご案内し、抗原検査を受けていただくこととしております。感染制御のため必要な対応であることご理解願います。院外プレハブの発熱外来は、感染状況に伴い流動的に運用いたしますので、ご留意願います(要電話予約)。



医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(一般病院2 3rdG: Ver.2.0)の認定を受けています。

■認定期間  
2020年9月26日～2025年9月25日



日本医療機能評価機構  
認定第 JC669 号

一般病院2 3rdG:Ver.2.0



●交通のご案内  
地下鉄東西線「東札幌駅」より  
徒歩5分

#### 駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

#### ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です(以後30分50円)。

Higashi Sapporo Hospital

## 医療法人 東札幌病院

〒003-8585  
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35  
電話 011-812-2311 (代表)  
FAX 011-823-9552  
E-mail: info@hsh.or.jp  
HP: <https://www.hsh.or.jp>

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さいようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。